

## 協働パイロット事業 (H25) 企画提案書

団体名： バディプロジェクト

## 1. 事業の名称

経産婦向け一時保育付きマタニティ講座「ウチに赤ちゃんがやってくる」

## 2. 事業方針 (市民ニーズや協働で取り組む意義を踏まえてください)

現在、行政、民間を含め、妊産婦向けの講座は初産婦対象のものばかりである。

しかし、経産婦の「育児をしながら妊娠、出産をする」という状況は、初産とは異なる、さまざまな課題に直面せざるを得ない。にもかかわらず、妊娠、出産をすでに経験しているから、ということで、経産婦についての支援の重要性は顧みられていないのが現状である。

そこで、実際に2人目、3人目を子育て真っ最中の母親の目から、経産婦が抱える不安や悩みをすくいあげ、明るい気持ちで新しい命を迎えられるような講座を企画した。また、市と協働する中で、静岡ならではの「2人目を生みたくなる子育て支援のかたち」を、市とともに考えていきたい。

## 3. 協働にあたって提案団体が果たす役割及び行政に望むこと (市の役割)

<バディプロジェクト>

講座の企画、講師手配、シナリオ作り、募集、講座運営、参加者アンケート調査

<行政>

講座の広報(広報誌掲載、ちやむへの掲載、保健師や助産師を通じての対象妊婦への告知)

講座の成果(アンケート結果や講座報告書)を、関係各課に配布し、母子保健、子育て支援、少子化対策、若年層の静岡市定着などの今後の施策の参考に

## 4. 成果目標 (できる限り具体的に表現してください)

- ・妊娠中の経産婦の不安やストレスの軽減。
- ・明るい気持ちで新しい命の誕生を迎える家庭の増加。
- ・母親の子育て力の向上。
- ・同じ状況(経産妊婦)の母親同士のつながりを作る。
- ・子育て経験の資源を有効に役立てる(経験の継承)。
- ・「もう一人産みたい」と思えるような子育て支援の実現。
- ・出産、子育てしやすい静岡市の実現。

妊娠中の経産婦が、先輩ママのさまざまな経験談を聞くことで、これから起こるさまざまな事態を予測し、準備ができるようになる。必要な情報(子どもの預け先、家事支援など)を提供し、また、子育てに対する考え方の多様性に気づくワークショップを行い、母親の対処能力、選択力のUPをはかる。前向きな気持ちで妊娠期を過ごし、母親の子育て力の向上により、虐待、産後うつリスクが減る。



団体名： バディプロジェクト

## 5. 事業計画

### 1. 「ウチに赤ちゃんがやってくる」実行委員会の開催（全5回）

- 第1回 3回講座の内容の企画
- 第2回 委員の役割分担、広報
- 第3回 講座のシナリオ確認  
(講座実施)
- 第4回 講座の振り返り
- 第5回 アンケート調査分析、次回の課題

### 2. 講座の実施「ウチに赤ちゃんがやってくる」(3回連続講座)

- 対象：安定期に入った経産妊婦、二人目以降を妊娠待ちの方
- 人数：20名
- 日程：平成25年9月中旬（予定）
- 会場：静岡市葵生涯学習センター(予定)
- 内容：第1回 経験者の話を聞いてみよう  
第2回 こんな時どうする？(グループワーク)  
第3回 家族みんなで迎えよう(パパも参加)

## 6. スケジュール

平成25年

- (6月 日程、会場決定 → 静岡市8月1日号広報誌掲載依頼)
- 7月初旬 第1回実行委員会開催 講座の内容の企画  
チラシ原稿作製、印刷  
広報開始(チラシ配布、WEB掲載)
- 中旬 第2回実行委員会開催 委員の役割分担、広報
- 8月初旬 受付開始
- 下旬 第3回実行委員会開催 講座のシナリオ確認  
受付メ切、参加者名簿作成、一時保育者確定
- 9月初旬 受講票発送
- 中旬～ 3回連続講座開催(週1回程度)
- 10月初旬 第4回実行委員会開催 講座の振り返り
- 12月 第5回実行委員会開催 アンケート調査分析、次回の課題  
事業報告書の作成



## 7. 実施体制および主要スタッフの経歴

- ・滝和子 バディプロジェクトH18年発足時より代表。お産とおっぱいのサークルかんがる一ぐみ代表。公益法人誕生学協会認定誕生学アドバイザー。NPO法人あざれあ交流会議理事。静岡県立大学看護学部と大学院看護学研究科にて、2009年よりそれぞれ年1回講義を行っている。
- ・近藤亜美、望月あゆみ 助産師
- ・鈴木とみ子 主任児童委員、地域の子育てサロンのリーダー、元幼稚園教諭、孫育て世代

その他、子育て経験豊富なスタッフ（4児の母、3児の母など）や転勤族、核家族、同居世帯など、様々な家族形態のスタッフが多くいる。

職歴も、教員、保育士、幼稚園教諭もおり、皆、経産マタニティへのサポートの必要性を強く感じ、主体的にこの講座に協力しようと考えている。

## 8. 特にアピールしたいこと（専門性、独自性、先駆性、実績など）

私たちバディプロジェクトは、マタニティから赤ちゃん期のパパ・ママを身近な地域でサポートしたいという思いから立ち上げた団体である。そばに寄り添う人材を育成する活動、ママをサポートし親子の絆をしっかりと結ぶ活動を行っている。スタッフの多くは、乳幼児を抱えた子育て中の母親であり、現在も進行中の育児体験から、母親同士の支え合いの必要性や重要性を感じ、「ママからママへの子育て支援の輪を広げたい」という思いで活動している。

H18年から子育てサポーター養成講座を開講し、昨年度まで7期、200名を超える子育てサポーターが修了している。修了生は初年度より、静岡市子育て支援課のご協力により、静岡市主催の子育て支援の場でボランティア活動を行っている。平成23年度からは、静岡市子育て支援課との共催事業となり、平成25年度も子ども未来課との共催予定。

本事業は、2人、3人の子を育てているメンバーの「一人目の出産は大変。だけど、二人目の出産は、もっともっと大変！」という実感から出発した企画である。

当初は、「二人目の出産のときに、こんなことを知りたかった」「こんな講座があったら良かった」を形にすることを目標としたが、回を重ねる(今年で4年目)うちに、「どうして二人目、三人目の出産が大変なのか？」を整理しながら考えることができるようになった。

「子育てしながら、妊娠出産をする」という視点から経産マタニティの課題を見ていくと、多くはどの経産婦にも当てはまる課題である。しかし現状は、それぞれの母親が個々の課題に直面したときに初めて、どこに相談するかを考えたり、個人的な悩みとして抱え込むことになる。

「子育てしながら、妊娠出産をする」という視点で、包括的に課題をとらえ、支援すること。そして、妊娠中に、これから起こるさまざまな事態を予測し、準備ができるような支援が必要であることを提案し、その実践としての本事業の協働を実現したい。



※ 参加費の徴収、物品の販売、提案団体の自己負担等、委託料以外の財源がある場合

収入見込み額	金額	主な用途
参加受講料	30,000	参加費 @1,500円×20人=30,000円
託児料	30,000	託児費 @1,500円×20人=30,000円
自己負担金	905	



## 協働パイロット事業 (H25) 見積書

団体名：バディプロジェクト

企画のタイトル：経産婦向け一時保育付マタニティ講座「ウチに赤ちゃんがやってくる」

項目	金額	説明
謝金	6,000	チラシ制作謝金 (両面)
旅費	50,400	スタッフ交通費 @720円×10人×3回=21,600円 実行委員会旅費 @720円×10人×4回=28,800円
消耗品費	10,000	用紙代、インク代、画用紙、筆記具他
会場費	6,600	講座会場費 @720円×3回=2,160円 託児会場費@520×3回=1,560円 打合せ会場費@720×4回=2,880円
役務費	120,900	受講生託児 @3,000円×10人×3回=90,000円 託児依頼料@300円×3回=900円 子連れスタッフ託児 @2,000円×5人×3回=30,000円
印刷製本費	12,000	チラシ・講座資料
通信費	3,200	チラシ発送@80円×20通=1,600円 受講生連絡資料発送 @80円×20通=1,600円
賃金	84,000	スタッフ賃金 講座・打合せ @1,200円×7回×10人=84,000円
雑費	3,000	振込手数料、保険代等
小計 A	296,100	
消費税 B=A×0.05	14,805	
合計 A+B	310,905	

◎実費弁償契約の希望の有無

有

無



## 企画提案の概要書

提案団体名	バディプロジェクト
企画案のタイトル	経産婦向け一時保育付きマタニティ講座「ウチに赤ちゃんがやってくる」
提案の要旨 (企画提案書の概要を400字以内でご記入ください。)	<p>現在、行政、民間を含め、妊産婦向けの講座は初産婦対象のものばかりである。しかし、経産婦の「育児をしながら妊娠、出産をする」という状況は、初産とは異なる、さまざまな課題に直面せざるを得ない。にもかかわらず、妊娠、出産をすでに経験しているから、ということで、経産婦についての支援の重要性は顧みられていない。</p> <p>そこで、実際に2人目、3人目を子育て真っ最中の母親の目から、経産婦が抱える不安や悩みをすくいあげ、明るい気持ちで新しい命を迎えられるようなマタニティ講座を企画した。</p> <p>講座では、妊娠中の経産婦が先輩ママのさまざまな経験談を聞くことで、これから起こるさまざまな事態を予測し、準備ができるようになる。必要な情報(子どもの預け先、家事支援など)を提供し、子育てに対する考え方の多様性に気づくワークショップを行う。</p> <p>「もう一人産む」ことへの支援は、少子化対策、虐待予防への効果も期待できる。</p>
金額	250,000円

## 《注意事項》

ホームページでの公開資料です。以下のことに注意してください。

- ・ 丸数字などの特殊記号は使わないようにしてください。
- ・ 図やイラスト、写真、動画、スライド等は掲載できません。
- ・ html で表現できない複雑な表現方法はご利用できません。